



2007年6月1日

未来の防衛能力を左右する推進技術

【英国 2007 年 5 月 31 日】民間航空、防衛航空、船舶、エネルギー各分野の世界市場において事業展開するロールス・ロイス社（本社：英国ロンドン、CEO：サー・ジョン・ローズ、以下「ロールス・ロイス」）のチーフ・エンジニアである、コンラッド・バンクスは、東京で開催された「日英航空宇宙産業会議 2007」において、推進技術の進歩は今まで同様に今後も防衛力の将来を左右すると述べました。

ロールス・ロイス・ディフェンス・エアロスペース社アドバンスト・プロジェクトのチーフ・エンジニアであるコンラッド・バンクスは、『日英航空宇宙産業会議 2007』は防衛に関する分科会で以下のように述べています。「小型・軽量・高効率のガスタービンが、さまざまな防衛需要に対応できるシステムの鍵になります」また、「統合電源システムは、未来のプラットフォームで必要となる大量の電力を効率的に発電・管理・分配することが可能です」と述べました。

防衛需要としては、無人戦闘機（UCAV）、最先端の軍用輸送機、高速機などが考えられます。ガスタービンの性能が高くなれば、運用コストが削減されるだけでなく、航続距離や信頼性の向上も期待できます。そのほか重要となる技術には、特に UCAV やその他のステルス・アプリケーション向けの技術として、低識別性の技術や軍事設備技術が挙げられます。

ロールス・ロイスは軍用航空エンジン・メーカーとして西側諸国第 2 位*、欧州では最大であり、世界の軍用機の約 25% にエンジンを供給しています。日本国内でも現在、約 900 基の航空エンジンが稼働中です。また、軍用航空エンジンを供給する国と顧客の数は、ロールス・ロイスが世界一です（103 カ国、160 社）。最大の顧客は米国防総省であり、米軍のさまざまな部隊で現在使用中の固定翼機や回転翼機、約 2,800 機にエンジンを供給しています。この中には、米空軍の RQ-4A Global Hawk、米海兵隊の AV8B Harrier、V-22 Osprey、米海軍の T-45 Goshawk、P-3 Orion、米陸軍の OH-58 Kiowa、Kiowa Warrior、MH-6 Little Bird ヘリコプター、さまざまな部隊で使用中の C-130 Hercules 輸送機といった重要な航空機も多数、含まれています。

ロールス・ロイスはまた、世界最大の戦闘機プログラム、Lightning II F-35 Joint Strike Fighter（JSF）の主要メンバーです。ゼネラル・エレクトリック社、プラット・アンド・ホイットニー社と協力し、短距離離陸・垂直着陸（STOVL）タイプの垂直離陸部品全品など、JSF が必要とする推力を提供できる高度なエンジン技術を提供しています。

欧州においては、EUROJET コンソーシアムの一員として、Eurofighter Typhoon に EJ200 エンジンを供給しています。また、NH-90 ヘリコプターと EH101 ヘリコプターには、ロールス・ロイスの Turbomeca RTM 322 エンジンが搭載されています。

以上

* 市場における順位は、第三者機関、AVSOFT の調査結果に基づくものであり、CIS 諸国と中国を除く世界で、運用可能な状態にある航空機に搭載されたエンジン数を反映したものです。